

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号
特許第6789005号
(P6789005)

(45) 発行日 令和2年11月25日 (2020. 11. 25)

(24) 登録日 令和2年11月5日 (2020. 11. 5)

(51) Int. Cl.

F I

EO4F 19/04 (2006. 01)

EO4F 19/04 I O 1 A

EO4G 23/02 (2006. 01)

EO4G 23/02 H

請求項の数 7 (全 12 頁)

(21) 出願番号	特願2016-109098 (P2016-109098)	(73) 特許権者	000010065
(22) 出願日	平成28年5月31日 (2016. 5. 31)		フクビ化学工業株式会社
(65) 公開番号	特開2017-214769 (P2017-214769A)		福井県福井市三十八社町33字66番地
(43) 公開日	平成29年12月7日 (2017. 12. 7)	(73) 特許権者	516160728
審査請求日	平成31年2月1日 (2019. 2. 1)		川島 治
			東京都東村山市本町2-20-60
		(74) 代理人	100161207
			弁理士 西澤 和純
		(74) 代理人	100140774
			弁理士 大浪 一徳
		(74) 代理人	100196058
			弁理士 佐藤 彰雄
		(74) 代理人	100064908
			弁理士 志賀 正武

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 巾木用カバーおよびこれを用いたリフォーム工法

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

巾木の前面を覆う立板部と、立板部の下部から前記巾木とは反対方向に突出する底片部とを有する下部カバー材と、

巾木の上面を覆う上片部と、該上片部の壁とは反対側の端縁部から下方に突出して前記立板部に重ねられる下方突出板部とを有する上部カバー材と、を備え、

前記下部カバー材は、前記立板部の下部に、前記巾木とは反対側が前記巾木とは反対方向に段差状に張り出すとともに前記巾木側が前記巾木とは反対方向に段差状に凹む段部が設けられており、

前記立板部の前記巾木側には、前記立板部の長手方向に延在する切断ガイド溝が複数形成されていることを特徴とする巾木用カバー。

10

【請求項 2】

前記上片部の前記巾木側には、前記上片部の長手方向に延在する切断ガイド溝が複数形成されていることを特徴とする請求項 1 記載の巾木用カバー。

【請求項 3】

巾木の前面を覆う立板部と、立板部の下部から前記巾木とは反対方向に突出する底片部とを有する下部カバー材と、

巾木の上面を覆う上片部と、該上片部の壁とは反対側の端縁部から下方に突出して前記立板部に重ねられる下方突出板部とを有する上部カバー材と、を備え、

前記下部カバー材は、前記立板部の下部に、前記巾木とは反対側が前記巾木とは反対方

20

向に段差状に張り出すとともに前記巾木側が前記巾木とは反対方向に段差状に凹む段部が設けられており、

前記上片部の前記巾木側には、前記上片部の長手方向に延在する切断ガイド溝が複数形成されていることを特徴とする巾木用カバー。

【請求項 4】

前記上部カバー材は、前記下方突出板部が前記立板部の前記巾木とは反対側に重ねられることを特徴とする請求項 1 乃至 3 のいずれか一項記載の巾木用カバー。

【請求項 5】

前記底片部が軟質の樹脂材料からなっていることを特徴とする請求項 1 乃至 4 のいずれか一項記載の巾木用カバー。

10

【請求項 6】

前記上片部が軟質の樹脂材料からなっていることを特徴とする請求項 1 乃至 5 のいずれか一項記載の巾木用カバー。

【請求項 7】

請求項 1 乃至 6 のいずれか一項記載の巾木用カバーを用いたリフォーム工法であって、既設床材の上に新設床材を敷設する新設床材施工工程と、

前記立板部で前記巾木の前面を覆うと共に前記立板部の下部から前記巾木とは反対方向に前記底片部を突出させて該底片部で前記新設床材と前記巾木との隙間を覆う下部カバー材施工工程と、

前記上片部で前記巾木の上面を覆うと共に前記上片部の前記壁とは反対側の端縁部から前記下方突出板部を下方に突出させる上部カバー材施工工程と、を含むことを特徴とするリフォーム工法。

20

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、巾木用カバーおよびこれを用いたリフォーム工法に関する。

【背景技術】

【0002】

住宅等の建物において、リフォーム工事を行う場合に、既設の巾木を撤去せずに巾木用カバーで覆うことが行われている（例えば、特許文献 1 ～ 4 参照）。

30

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

【特許文献 1】特開 2013 - 44141 号公報

【特許文献 2】登録実用新案第 3185957 号公報

【特許文献 3】特許第 3942448 号公報

【特許文献 4】特許第 3504788 号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

40

ところで、リフォーム工事において、既設床材上に新設床材を敷設する、いわゆる増し貼りを行う場合に、既設床材上に新設床材を巾木の位置まで正確に敷設するためには、新設床材の端縁部を巾木の実際の形状に合わせて加工する作業等が必要になる。このような作業は、非常に煩雑であって困難であり、巾木と新設床材との間に隙間を生じてしまうのが実状である。このような隙間を巾木用カバーで覆うためには、厚みのある巾木用カバーを使用する必要がある、巾木用カバーの室内空間側への張り出し量が大きくなってしまふ。このため、室内空間が減ることになり、また、外観上も違和感が生じてしまう。

【0005】

本発明は、室内空間側への張り出し量の拡大を抑制できる巾木用カバーおよびこれを用いたリフォーム工法の提供を目的とする。

50

【課題を解決するための手段】

【0006】

上記目的を達成するために、本発明に係る巾木用カバーは、巾木の前面を覆う立板部と、立板部の下部から前記巾木とは反対方向に突出する底片部とを有する下部カバー材と、巾木の上面を覆う上片部と、該上片部の壁とは反対側の端縁部から下方に突出して前記立板部に重ねられる下方突出板部とを有する上部カバー材と、を備えることを特徴とする。

【0007】

このように、下部カバー材が、巾木の前面を覆う立板部と、立板部の下部から巾木とは反対方向に突出する底片部とを有するため、底片部で、巾木と新設床材との隙間を覆うことができる。よって、巾木と新設床材との隙間とは無関係に立板部の厚みおよび上部カバー材の厚みを設定することができるため、室内空間側への張り出し量の拡大を抑制することができる。

10

【0008】

前記下部カバー材は、前記立板部の下部に、前記巾木とは反対側が前記巾木とは反対方向に段差状に張り出すとともに前記巾木側が前記巾木とは反対方向に段差状に凹む段部が設けられている。この構成により、巾木の下部に室内空間側に突出する部分があっても、この部分を段部の内側の空間に納めることができる。

前記立板部の前記巾木側には、前記立板部の長手方向に延在する切断ガイド溝が複数形成されている。この構成により、立板部の切断による寸法調整が容易となる。

前記上片部の前記巾木側には、前記上片部の長手方向に延在する切断ガイド溝が複数形成されている。この構成により、上片部の切断による寸法調整が容易となる。

20

【0009】

前記上部カバー材は、前記下方突出板部が前記立板部の前記巾木とは反対側に重ねられていても良い。このように構成すれば、上部カバー材で巾木の上部および下部カバー材の立板部の上部を覆うことができる。また、上部カバー材の下方突出板部が、下部カバー材の立板部の下部の段部と同様に室内空間側に張り出すことになる。したがって、外観上の違和感を抑えることができる。

【0012】

前記底片部が軟質の樹脂材料からなっても良い。このように構成すれば、底片部が接地面に追従して変形することで接地面の不陸等を吸収できる。

30

【0013】

前記上片部が軟質の樹脂材料からなっても良い。このように構成すれば、上片部が壁面に追従して変形することで壁面の不陸等を吸収できる。

【0014】

本発明に係るリフォーム工法は、上記巾木用カバーを用いたリフォーム工法であって、既設床材の上に新設床材を敷設する新設床材施工工程と、前記立板部で前記巾木の前面を覆うと共に前記立板部の下部から前記巾木とは反対方向に前記底片部を突出させて該底片部で前記新設床材と前記巾木との隙間を覆う下部カバー材施工工程と、前記上片部で前記巾木の上面を覆うと共に前記上片部の前記壁とは反対側の端縁部から前記下方突出板部を下方に突出させる上部カバー材施工工程と、を含むことを特徴とする。

40

【0015】

このように、下部カバー材が、巾木の前面を覆う立板部と、立板部の下部から巾木とは反対方向に突出する底片部とを有するため、底片部で、巾木と新設床材との隙間を覆うことができる。よって、巾木と新設床材との隙間とは無関係に立板部の厚みおよび上部カバー材の厚みを設定することができるため、室内空間側への張り出し量の拡大を抑制することができる。

【発明の効果】

【0016】

本発明によれば、室内空間側への張り出し量の拡大を抑制できる巾木用カバーおよびこれを用いたリフォーム工法を提供することができる。

50

【図面の簡単な説明】

【0017】

【図1】本発明に係る第1実施形態の巾木用カバーを示す側面図である。

【図2】本発明に係る第1実施形態の巾木用カバーの施工例を示す断面図である。

【図3】本発明に係る第1実施形態の巾木用カバーの別の施工例を示す断面図である。

【図4】本発明に係る第1実施形態の巾木用カバーのさらに別の施工例を示す断面図である。

【図5】本発明に係る第1実施形態の巾木用カバーのさらに別の施工例を示す断面図である。

【図6】本発明に係る第2実施形態の巾木用カバーの施工例を示す断面図である。

10

【図7】本発明に係る第3実施形態の巾木用カバーの施工例を示す断面図である。

【発明を実施するための形態】

【0018】

「第1実施形態」

以下、本発明に係る第1実施形態について、図1～図5を参照して説明する。

【0019】

図1は、第1実施形態の巾木用カバー10を示すものである。この巾木用カバー10は、下部カバー材11および上部カバー材12の2部品からなっている。下部カバー材11および上部カバー材12は、塩化ビニル等の合成樹脂材料からなる一体成形品である。

【0020】

20

下部カバー材11は、押し出し成形品であり、押し出し方向を長手方向とする長尺状をなしている。下部カバー材11は、長手方向に直交する断面が全長にわたって図1に示す一定形状をなしている。下部カバー材11は、図2に示すように上下方向に広がるように配置される立板部21と、立板部21の下端縁部から水平方向に広がるように突出する底片部22とを有している。立板部21および底片部22も押し出し方向を長手方向とする長尺状をなしている。

【0021】

図1に示すように、立板部21は、平板状の第一板部25と、第一板部25の底片部22側の下端縁部から第一板部25と鈍角をなして斜め下方に突出する平板状の第二板部26と、第二板部26の第一板部25とは反対側の下端縁部から、第一板部25と平行に第一板部25から離れる下方向に突出する平板状の第三板部27とを有している。立板部21において、第二板部26および第三板部27は、第一板部25よりも厚さ方向つまり水平方向の一侧に段差状に張り出す段部30を構成している。段部30は、水平方向の逆側が第一板部25よりも厚さ方向つまり水平方向の一侧に段差状に凹んでいる。

30

【0022】

第一板部25には、厚さ方向における段部30の張り出し方向とは反対側の面に、立板部21の長手方向に直線状に延在するVノッチである切断ガイド溝33が、所定の等間隔で複数平行に形成されている。切断ガイド溝33は、立板部21の長手方向に延びる底片部22と平行に延在している。切断ガイド溝33は、第一板部25の段部30とは反対側の端部から段部30よりも手前までの所定の範囲に形成されている。下部カバー材11は、切断ガイド溝33を除いて略一定の厚さとなっている。

40

【0023】

底片部22は、平板状であり、立板部21の第三板部27の第二板部26とは反対側の端縁部から第三板部27の厚さ方向において第一板部25とは反対方向に突出している。底片部22は、第三板部27に直交している。底片部22の第三板部27とは反対側の端縁部には、底片部22の突出方向の外側ほど下側に位置するように湾曲しつつ傾斜する傾斜面34が形成されている。底片部22は、傾斜面34が形成されることで掃除機などが当たりにくくなる。

【0024】

上部カバー材12も、押し出し成形品であり、押し出し方向を長手方向とする長尺状を

50

なしている。上部カバー材 12 は、長手方向に直交する断面が全長にわたって図 1 に示す一定形状をなしている。上部カバー材 12 は、図 2 に示すように水平方向に広がるように配置される上片部 41 と、上片部 41 の一端縁部から鉛直方向に広がるように下方に突出する下方突出板部 42 とを有している。上片部 41 および下方突出板部 42 も押し出し方向を長手方向とする長尺状をなしている。

【0025】

図 1 に示すように、上片部 41 は平板状である。下方突出板部 42 も平板状であり、上片部 41 の一端縁部から上片部 41 に対し垂直に突出している。上片部 41 には、その厚さ方向における下方突出板部 42 の突出側の面に、上片部 41 の長手方向に直線状に延在する V ノッチである切断ガイド溝 45 が、所定の等間隔で複数平行に形成されている。切断ガイド溝 45 は、上片部 41 の長手方向に延びる下方突出板部 42 と平行に延在している。切断ガイド溝 45 は、上片部 41 の下方突出板部 42 とは反対側の端部から下方突出板部 42 よりも若干手前までの所定の範囲に形成されている。下方突出板部 42 の突出側の端縁部には、突出先端側ほど下方突出板部 42 の厚さ方向において上片部 41 に近づくように傾斜する傾斜面 46 が形成されている。

【0026】

ここで、上片部 41 の切断ガイド溝 45 を除く部分の厚さ T1 は、下部カバー材 11 の切断ガイド溝 33 を除く部分の厚さ T2 と同等に設定されており、下方突出板部 42 の厚さ T3 は、厚さ T1、T2 よりも薄く、段部 30 の第一板部 25 からの張り出し量 D1 および段部 30 の第一板部 25 からの凹み量 D2 と同等に設定されている。また、下方突出板部 42 の上下方向長さ L1 は、段部 30 の上下方向長さ L2 と同等に設定されており、傾斜面 46 の上下方向長さ L3 は、第二板部 26 の上下方向長さ L4 と同等に設定されている。

【0027】

次に、上記した巾木用カバー 10 を用いたリフォーム工法について説明する。

【0028】

図 2 に示すように、ここでは、リフォーム前の水平に広がる既設床材 51 の上面に新設床材 52 を敷設し、リフォーム前の巾木 53 を巾木用カバー 10 で覆う場合を例にとり説明する。巾木 53 は壁 54 の下端縁部に取り付けられている。

【0029】

まず、既設床材 51 の上に新設床材 52 を敷設する新設床材施工工程を行う。この新設床材施工工程において、既設床材 51 の上に増し貼りされる新設床材 52 と巾木 53 との間に隙間 55 が生じる。なお、この隙間 55 を許容することで、煩雑であって困難な新設床材 52 の巾木 53 側の端縁部を巾木 53 の実際の形状に合わせて加工する作業等が不要になり、新設床材施工工程の施工に要する時間および労力を大幅に低減することができることになる。

【0030】

新設床材 52 の上面から巾木 53 の上面までの高さに、下部カバー材 11 の高さを合わせるように、適宜の位置の切断ガイド溝 33 を選択し、この切断ガイド溝 33 に沿ってカッタの刃先を移動させることで下部カバー材 11 の立板部 21 の第一板部 25 を切断する下部カバー材切断工程を行う。この下部カバー材切断工程は、新設床材施工工程の前に行っても、新設床材施工工程の後に行っても良い。

【0031】

新設床材施工工程および下部カバー材切断工程の後、下部カバー材 11 を、その立板部 21 を鉛直方向に沿わせ、その底片部 22 を立板部 21 の下端位置で水平方向に沿わせると共に、水平方向において立板部 21 が巾木 53 側に底片部 22 が巾木 53 とは反対側に位置する姿勢とし、この姿勢で、底片部 22 を新設床材 52 の上面に載置させ、立板部 21 を巾木 53 の室内空間 S 側の前面に両面テープ等で接着する下部カバー材施工工程を行う。下部カバー材施工工程後の下部カバー材 11 は、その立板部 21 で巾木 53 の前面を覆うと共に、立板部 21 の下部から巾木 53 とは反対方向に底片部 22 を突出させて、こ

の底片部 2 2 で新設床材 5 2 と巾木 5 3 との隙間 5 5 を覆う状態となる。下部カバー材施工工程後の下部カバー材 1 1 は、立板部 2 1 の下部に設けられた段部 3 0 が、巾木 5 3 とは反対方向に張り出している。また、下部カバー材施工工程後の下部カバー材 1 1 は、切断ガイド溝 3 3 が立板部 2 1 における巾木 5 3 側に形成されている。

【 0 0 3 2 】

巾木 5 3 の厚さと下部カバー材 1 1 の第一板部 2 5 の厚さとの合算値に、上片部 4 1 の下方突出板部 4 2 からの突出長さを合わせるように、適宜の位置の切断ガイド溝 4 5 を選択し、この切断ガイド溝 4 5 に沿ってカッタの刃先を移動させることで上部カバー材 1 2 の上片部 4 1 を切断する上部カバー材切断工程を行う。この上部カバー材切断工程は、下部カバー材施工工程の前に行っても、下部カバー材施工工程の後に行っても良い。

10

【 0 0 3 3 】

下部カバー材施工工程および上部カバー材切断工程の後、上部カバー材 1 2 を、その上片部 4 1 を水平に沿わせ、その下方突出板部 4 2 を上片部 4 1 から鉛直下方に突出させると共に、水平方向において上片部 4 1 が壁 5 4 側に、下方突出板部 4 2 が壁 5 4 とは反対側に位置する姿勢とし、この姿勢で、上片部 4 1 を巾木 5 3 の上面に両面テープ等で接着し、下方突出板部 4 2 を下部カバー材 1 1 の立板部 2 1 の第一板部 2 5 の室内空間 S 側の前面に両面テープ等で接着する上部カバー材施工工程を行う。上部カバー材施工工程後の上部カバー材 1 2 は、上片部 4 1 で巾木 5 3 の上面および立板部 2 1 の第一板部 2 5 の上面を覆うと共に、上片部 4 1 の壁 5 4 とは反対側の端縁部から下方突出板部 4 2 を下方に突出させて立板部 2 1 の第一板部 2 5 の巾木 5 3 とは反対側の前面に重ねる。上部カバー材施工工程後の上部カバー材 1 2 は、切断ガイド溝 4 5 が上片部 4 1 の巾木 5 3 側に形成されている。

20

【 0 0 3 4 】

以上のようにして、巾木用カバー 1 0 で、巾木 5 3 の前面および上面と、新設床材 5 2 および巾木 5 3 の隙間 5 5 とを覆うことになる。

【 0 0 3 5 】

以上に述べた第 1 実施形態によれば、下部カバー材 1 1 が、巾木 5 3 の前面を覆う立板部 2 1 と、立板部 2 1 の下部から巾木 5 3 とは反対方向に突出する底片部 2 2 とを有するため、底片部 2 2 で、巾木 5 3 と新設床材 5 2 との隙間 5 5 を覆うことができる。よって、巾木 5 3 と新設床材 5 2 との隙間 5 5 とは無関係に立板部 2 1 の厚みおよび上部カバー材 1 2 の厚みを設定することができるため、巾木用カバー 1 0 の室内空間 S 側への張り出し量の拡大を抑制することができる。ここで、下部カバー材 1 1 の切断ガイド溝 3 3 を除く部分の厚さ T 2 を 0 . 5 mm 以上 2 . 0 mm 以下とし、より具体的には 1 . 5 mm としている。すなわち、巾木 5 3 の一般的な厚さが 2 mm 以上 1 0 mm 以下であることから、下部カバー材 1 1 の厚さ T 2 を巾木 5 3 の厚さ以下としている。

30

【 0 0 3 6 】

また、下部カバー材 1 1 は、立板部 2 1 の下部に巾木 5 3 とは反対方向に張り出す段部 3 0 が設けられているため、下方突出板部 4 2 を立板部 2 1 の上部の巾木 5 3 とは反対側に重ねて巾木 5 3 の上部および下部カバー材 1 1 の立板部 2 1 の上部を覆った上部カバー材 1 2 と同様に室内空間 S 側に張り出すことになる。したがって、外観上の違和感を抑えることができる。しかも、段部 3 0 の上下方向長さ L 2 が下方突出板部 4 2 の上下方向長さ L 1 と同等であるため、これらが対称状になり、外観上の違和感を一層抑えることができる。

40

【 0 0 3 7 】

また、下部カバー材 1 1 には、立板部 2 1 の巾木 5 3 側に、立板部 2 1 の長手方向と平行に延在する切断ガイド溝 3 3 が複数形成されているため、立板部 2 1 の切断による寸法調整が容易となる。

【 0 0 3 8 】

また、上部カバー材 1 2 には、上片部 4 1 の巾木 5 3 側に、上片部 4 1 の長手方向に延在する切断ガイド溝 4 5 が複数形成されているため、上片部 4 1 の切断による寸法調整が

50

容易となる。

【 0 0 3 9 】

ここで、下部カバー材 1 1 には、立板部 2 1 の下部に巾木 5 3 とは反対方向に張り出す段部 3 0 が設けられているため、段部 3 0 および底片部 2 2 と巾木 5 3 との間に空間 6 0 が生じる。このため、図 3 に示すように、下部に、本体部 6 1 よりも室内空間 S 側に突出する本体部 6 1 よりも軟質の変形容易な突出片部 6 2 がある巾木 5 3 A に対しても、この突出片部 6 2 を段部 3 0 の内側の空間 6 0 内に納めることができ、巾木 5 3 A の前面を立板部 2 1 で良好に覆うことができる。つまり、突出片部 6 2 の除去等の面倒な作業が不要になり、施工が容易となる。

【 0 0 4 0 】

10

また、図 4 に示すように、上部材 6 5 と下部材 6 6 との 2 部材からなり、下部材 6 6 が上部材 6 5 の室内空間 S 側の前面よりも室内空間 S 側に突出する突出部 6 7 を有している巾木 5 3 B に対しても、この突出部 6 7 を段部 3 0 の内側の空間 6 0 に納めることができ、巾木 5 3 B の前面を立板部 2 1 で良好に覆うことができる。つまり、下部材 6 6 の突出部 6 7 の除去等の面倒な作業が不要になり、施工が容易となる。

【 0 0 4 1 】

また、図 5 に示すように、下部に、本体部 7 1 よりも室内空間 S 側に突出する突出片部 7 2 があって本体部 7 1 および突出片部 7 2 が軟質の変形容易な材料で一体成形された、厚さが薄い巾木 5 3 C に対しても、上片部 4 1 の寸法を短くすることによって、上記と同様に、上部カバー材 1 2 が、上片部 4 1 で巾木 5 3 C の上面および立板部 2 1 の第一板部 2 5 の上面を覆うと共に、下方突出板部 4 2 を上片部 4 1 の壁 5 4 とは反対側の端縁部から下方に突出させて立板部 2 1 の巾木 5 3 C とは反対側に重ねる状態となる。このように厚さが薄い巾木 5 3 C の下部の突出片部 7 2 についても、段部 3 0 の内側の空間 6 0 に納めて、巾木 5 3 C の前面を立板部 2 1 で良好に覆うことができる。

20

【 0 0 4 2 】

「第 2 実施形態」

以下、本発明に係る第 2 実施形態について、主に図 6 を参照して第 1 実施形態との相違部分を中心に以下に説明する。

【 0 0 4 3 】

第 2 実施形態の巾木用カバー 1 0 D は、その下部カバー材 1 1 D が、上下方向に広がるように配置されて巾木 5 3 の前面を覆う第 1 実施形態の第一板部 2 5 と同様の立板部 2 1 D と、立板部 2 1 D の下端縁部から巾木 5 3 とは反対方向の斜め下方に突出し隙間 5 5 を覆って新設床材 5 2 の上面に当接する底片部 2 2 D とを有している。下部カバー材 1 1 D も合成樹脂材料からなっており、底片部 2 2 D は立板部 2 1 D よりも軟質の変形容易な合成樹脂材料からなっている。下部カバー材 1 1 D の底片部 2 2 D は、巾木 5 3 との間に空間 6 0 D が生じる。

30

【 0 0 4 4 】

また、第 2 実施形態の巾木用カバー 1 0 D は、その上部カバー材 1 2 D が、上下方向に広がるように配置されて立板部 2 1 D の巾木 5 3 とは反対側に重ねられる第 1 実施形態と同様の下方突出板部 4 2 と、下方突出板部 4 2 の上端縁部から壁 5 4 側に斜め上方に向け延出し巾木 5 3 の上面を覆って壁 5 4 の壁面に当接する上片部 4 1 D とを有している。上部カバー材 1 2 D も合成樹脂材料からなっており、上片部 4 1 D は下方突出板部 4 2 よりも軟質の変形容易な合成樹脂材料からなっている。

40

【 0 0 4 5 】

このような第 2 実施形態によれば、下部カバー材 1 1 D の底片部 2 2 D が軟質の樹脂材料からなっているため、底片部 2 2 D が新設床材 5 2 の接地面に追従して変形することで接地面の不陸等を吸収できる。

【 0 0 4 6 】

また、上部カバー材 1 2 の上片部 4 1 D が軟質の樹脂材料からなっているため、上片部 4 1 D が壁 5 4 の壁面に追従して変形することで壁面の不陸等を吸収できる。

50

【 0 0 4 7 】

「 第 3 実施形態 」

以下、本発明に係る第 3 実施形態について、主に図 7 を参照して第 1 実施形態との相違部分を中心に以下に説明する。

【 0 0 4 8 】

第 3 実施形態の巾木用カバー 1 0 E は、その上部カバー材 1 2 E が、水平方向に広がるように配置されて巾木 5 3 の上面を覆う上片部 4 1 E と、上片部 4 1 E の壁 5 4 とは反対側の端縁部から鉛直方向に広がるように下方に突出する下方突出板部 4 2 E とを有している。上片部 4 1 E の巾木 5 3 側の下面には、上片部 4 1 E の長手方向に延在する直線状の V ノッチである切断ガイド溝 4 5 E が複数形成されている。

10

【 0 0 4 9 】

下方突出板部 4 2 E は、上片部 4 1 E の壁 5 4 とは反対側の端縁部から鉛直下方に延出する平板状の第一板部 8 1 と、第一板部 8 1 の上片部 4 1 E とは反対の下端縁部から第一板部 8 1 と鈍角をなして巾木 5 3 側に斜めに突出する平板状の第二板部 8 2 と、第二板部 8 2 の第一板部 8 1 とは反対側の下端縁部から、第一板部 8 1 と平行に第一板部 8 1 から離れる下方方向に延出する平板状の第三板部 8 3 とを有している。下方突出板部 4 2 E において、第一板部 8 1 および第二板部 8 2 は、第三板部 8 3 よりも巾木 5 3 とは反対側に張り出す段部 8 5 を構成している。段部 8 5 は、水平方向の逆側が第三板部 8 3 よりも巾木 5 3 から離れる方向に段状に凹んでいる。第三板部 8 3 には、巾木 5 3 側の面に、下方突出板部 4 2 E の長手方向に延在する直線状の切断ガイド溝 8 6 が複数形成されている。

20

【 0 0 5 0 】

第 3 実施形態の巾木用カバー 1 0 E は、その下部カバー材 1 1 E が、上下方向に広がるように配置されて巾木 5 3 の前面を覆う立板部 2 1 E と、立板部 2 1 E の下端縁部から水平方向に広がるように巾木 5 3 とは反対方向に突出し隙間 5 5 を覆って新設床材 5 2 の上面に当接する底片部 2 2 E とを有している。底片部 2 2 E の巾木 5 3 とは反対側の端縁部には、巾木 5 3 から離れるほど下側に位置するように湾曲しつつ傾斜する傾斜面 3 4 E が形成されている。立板部 2 1 E の上端縁部には、上側ほど巾木 5 3 側に位置するように傾斜する傾斜面 9 1 が形成されている。立板部 2 1 E の上下方向長さは、上部カバー材 1 2 E の段部 8 5 の上下方向長さと同様である。

【 0 0 5 1 】

30

上部カバー材 1 2 E の第三板部 8 3 を、適宜の切断ガイド溝 8 6 の位置で切断した状態とし、新設床材施工工程後、上片部 4 1 E を巾木 5 3 の上面に両面テープ等で接着し、下方突出板部 4 2 E の第三板部 8 3 を巾木 5 3 の前面に両面テープ等で接着する上部カバー材施工工程を行う。この上部カバー材施工工程後、上部カバー材 1 2 E は、上片部 4 1 E で巾木 5 3 の上面を覆うと共に上片部 4 1 E の壁 5 4 とは反対側の端縁部から下方突出板部 4 2 E を下方に突出させた状態になる。上部カバー材施工工程後の上部カバー材 1 2 E は、下方突出板部 4 2 E の上部に設けられた段部 8 5 が、巾木 5 3 とは反対方向に張り出している。

【 0 0 5 2 】

40

この状態で、下部カバー材 1 1 E を、その底片部 2 2 E を新設床材 5 2 の上面に載置させ、その立板部 2 1 E を上部カバー材 1 2 E の第三板部 8 3 の室内空間 S 側の前面に両面テープ等で接着する下部カバー材施工工程を行う。下部カバー材施工工程後の下部カバー材 1 1 E は、その立板部 2 1 E で巾木 5 3 の前面を覆うと共に立板部 2 1 E の下部から巾木 5 3 とは反対方向に底片部 2 2 E を突出させて底片部 2 2 E で新設床材 5 2 と巾木 5 3 との隙間 5 5 を覆う状態となる。

【 0 0 5 3 】

第 3 実施形態によれば、下部カバー材 1 1 E が、巾木 5 3 の前面を覆う立板部 2 1 E と、立板部 2 1 E の下部から巾木 5 3 とは反対方向に突出する底片部 2 2 E とを有するため、底片部 2 2 E で、巾木 5 3 と新設床材 5 2 との隙間 5 5 を覆うことができる。よって、巾木 5 3 と新設床材 5 2 との隙間 5 5 とは無関係に立板部 2 1 E の厚みおよび上部カバー

50

材 1 2 E の厚みを設定することができるため、巾木用カバー 1 0 E の室内空間 S 側への張り出し量の拡大を抑制することができる。

【 0 0 5 4 】

上部カバー材 1 2 E は、下方突出板部 4 2 E の上部に巾木 5 3 とは反対方向に張り出す段部 8 5 が設けられている。このため、段部 8 5 が、立板部 2 1 E を下方突出板部 4 2 E の巾木 5 3 とは反対側に重ねて巾木 5 3 の下部および下方突出板部 4 2 E の下部を覆った下部カバー材 1 1 E の立板部 2 1 E と同様に室内空間 S 側に張り出すことになる。したがって、外観上の違和感を抑えることができる。段部 8 5 の上下方向長さが立板部 2 1 E の上下方向長さと同様であるため、これらが対称状になり、外観上の違和感を一層抑えることができる。

10

【 0 0 5 5 】

上部カバー材 1 2 E には、下方突出板部 4 2 E の巾木 5 3 側に、下方突出板部 4 2 E の長手方向に延在する切断ガイド溝 8 6 が複数形成されているため、下方突出板部 4 2 E の切断による寸法調整が容易となる。また、上部カバー材 1 2 E には、上片部 4 1 E の巾木 5 3 側に、上片部 4 1 E の長手方向に延在する切断ガイド溝 4 5 E が複数形成されているため、上片部 4 1 E の切断による寸法調整が容易となる。

【 0 0 5 6 】

ここで、下部カバー材 1 1 E は、上部カバー材 1 2 E の巾木 5 3 とは反対側に重ねられているため、巾木 5 3 との間に空間 6 0 E を生じさせることが可能になる。このため、下部に、室内空間 S 側に突出する部分がある巾木に対しても、この突出部分を空間 6 0 E 内に納めることができ、巾木の前面を立板部 2 1 E で良好に覆うことができる。よって、巾木の突出部分の除去等の面倒な作業が不要になり、施工が容易となる。

20

【 符号の説明 】

【 0 0 5 7 】

- 1 0 , 1 0 D , 1 0 E 巾木用カバー
- 1 1 , 1 1 D , 1 1 E 下部カバー材
- 1 2 , 1 2 D , 1 2 E 上部カバー材
- 2 1 , 2 1 D , 2 1 E 立板部
- 2 2 , 2 2 D , 2 2 E 底片部
- 3 0 段部
- 3 3 切断ガイド溝
- 4 1 , 4 1 D , 4 1 E 上片部
- 4 2 , 4 2 E 下方突出板部
- 4 5 , 4 5 E 切断ガイド溝
- 5 1 既設床材
- 5 2 新設床材
- 5 3 , 5 3 A , 5 3 B , 5 3 C 巾木
- 5 4 壁
- 5 5 隙間
- 6 0 空間

30

40

フロントページの続き

- (74)代理人 100108578
弁理士 高橋 詔男
- (74)代理人 100094400
弁理士 鈴木 三義
- (72)発明者 川島 治
東京都東村山市本町2 - 20 - 60
- (72)発明者 石田 尚也
東京都品川区大井1丁目23番3号 フクビビル フクビ化学工業株式会社内
- (72)発明者 吉田 賢二郎
東京都品川区大井1丁目23番3号 フクビビル フクビ化学工業株式会社内
- (72)発明者 田中 俊也
福井県福井市三十八社町33字66番地 フクビ化学工業株式会社内

審査官 前田 敏行

- (56)参考文献 特開2016-113808(JP,A)
特開2003-227230(JP,A)
特開2004-107877(JP,A)
特開2013-044141(JP,A)
実開平05-085931(JP,U)
特開2000-096815(JP,A)
米国特許出願公開第2011/0108318(US,A1)
米国特許第05598681(US,A)
特開2012-041746(JP,A)
特開2007-032246(JP,A)
特開2000-034827(JP,A)
登録実用新案第3068485(JP,U)
特開平11-324300(JP,A)

- (58)調査した分野(Int.Cl., DB名)
- | | |
|------|-------|
| E04F | 19/04 |
| E04G | 23/02 |